

2025（令和7）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495000315	事業の開始年月日	平成25年4月1日
		指定年月日	平成25年4月1日
法人名	医療法人啓和会		
事業所名	グループホーム東小田		
所在地	( 210-0846 ) 神奈川県川崎市川崎区小田5-19-14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和8年2月10日	評価結果 市町村受理日	令和8年5月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住宅街の中にある施設ですが1歩外に出ると地域の方と触れ合うことができる環境です。施設は通りに面して建っており花壇があるので、散歩の方が立ち止まってお花を見たりされています。ご利用者様も日向ぼっこなどで、地域の方との触れ合いがあります。芋煮会等施設のイベントに地域の方も参加して下さったり、1階の小規模多機能が地域支援コーディネーターをしているので移動パン屋が来たり美容レクに参加したりと地域の方との触れ合いができます。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年3月10日	評価機関 評価決定日	令和8年5月11日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム東小田は、JR南武線・浜川崎支線の小田栄駅の南方550mの場所に位置しています。現地一帯は第二種住居地域であり、周辺は民家、アパート、マンションが多く、閑静な環境です。建物は「ケアヴィレッジ東小田」との名称で、グループホームの他にデイサービス、小規模多機能ホームも入居する介護複合施設です。グループホームは施設の2階、3階部分を使用しています。

<優れている点>

「利用者の日々の生活を、利用者とともに作り上げていく」ことを念頭に利用者との関わりを大切にしています。一日の流れの中で、利用者の残存能力を活かす仕組みを整え、食事は、盛り付け、配膳、お茶の湯呑茶碗注ぎ、下膳、片付け、テーブル拭きなど利用者が主体的に役割を担い参加しています。「みんなで準備してみんなで一緒に食べる」一体感を作り出しています。共有部分の壁面に飾る貼り絵によるコラージュも、素材は職員が用意しつつも、作成は利用者とおくまでも主体は利用者お認識し支援に努めています。過介助にならないよう、できることはやってみようことで認知症の進行を穏やかにする効果をもたらしています。

<工夫点>

利用者の生活に潤いをもたらすために花壇を設置しています。年間を通して開花を見ることができるよう複数の種を植え、利用者が定期的に鑑賞するだけでなく、花摘みを行い、摘んだ花をリビングに飾るなど季節を感じられるようにしています。花々のほかにスイカも育て、成長を見守りながらデザートとして食すなど、食の楽しみにもつなげています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム東小田
ユニット名	2階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念の1つに【地域共生】を掲げている。近隣の入居者様が多く、地域の特性やニーズに合わせた支援を行っている。	法人の掲げる「利用者本位」「高齢者の自立支援」「利用者による選択」「地域共生」の4つの理念を、事業所の理念として事業所内に掲示しています。職員は入職時にこの理念について学び、理念を常に目にすることで日々の支援に浸透するように図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内祭りの際、神輿渡御のルートになっていて休憩所としても開放している。イベント『芋煮会』の開催。地域交流に努めている。	地元の「小田五六町内会」に加入しています。10年以上続く「芋煮会」では、住民と職員が事業所建物内で一緒に芋煮を作り、近隣住民にふるまっています。さらにバンド演奏、フラダンスなどの催し物、介護の相談コーナーなども設置し、地域が一体となって楽しみながら交流できる機会を設けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設掲示板に介護相談の掲示をしている。家庭での介護の悩みについて話を聞き支援することが目的であり、また【近くに相談できる施設がある】と認知して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通して地域との繋がりが、地域の活動や行事へ参加施設の行事にも参加していただく関係性を築いています。地域の中にある施設作りをしています。	同一法人へ移設事業所のケアヴィレッジ東小田に入居している小規模多機能、デイサービスの代表者とともに合同で運営推進会議を開催しています。構成員として、町内会長、民生委員、地域包括支援センタースタッフの参加を得ています。地域の情報やニーズを把握できる機会となっています。事業所も空き情報などを伝えています。	家族参加できるような仕組みが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括には推進会議に参加していただき施設のイベントにも参加していただいている。	生活保護について川崎区役所保護課と適宜連絡を取り合っています。また、地域連携を深めるため、京町地域包括支援センター職員を運営推進会議に招いています。地域の高齢者の困りごとの把握や関係機関との連携は、事業所にとどまらず法人全体で取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束及びスピーチロック、ドラッグロックとなる行為を正しく理解出来ていない職員が多いと感じる。引き続き研修等を通じて正しく理解してもらえよう取り組んでいく。	法人が設置している、身体拘束廃止に関する委員会からの指示、助言に基いて事業所として、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。そのための研修についても運営法人が企画、実施しているので、職員1名が参加します。後日、研修中のメモ書きや配布資料をもとに伝達研修をおこない、全職員が学ぶようにしています。	早急に法人主体ではなく、事業所として委員会設置、開催、研修の実施が期待されます。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴時等、全身確認の実施。外傷発見時には本人様に確認し関係職員に聞き取りを行い再発防止に努めている。施設長含め職員間で根本原因の話し合いを実施。	法人で設置している、虐待防止に関する委員会からの指示、助言に基いて事業所としても虐待防止に取り組んでいます。そのための研修についても運営法人が企画、実施しているので、職員1名が参加し、後日、伝達研修をおこないます。また、年に2回、チェックシートによる自己点検も行っています。	早急に法人主体ではなく、事業所として委員会設置、開催、研修の実施が期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、ご利用様が青年後見人を利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結には十分な時間をかけています。不安や疑問点があれば、その都度管理者が対応しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置。ご家族の希望など可能な限り随時対応している。	利用者家族が面談に訪れたときには、利用者の日頃の様子を伝えるとともに、家族から意向、要望、意見等を聞くように努めています。来訪の頻度が少ない家族からの意向の把握をどのような形で行っていくかを検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なフロア会議や申し送り時など意見交換の場を設けている。場合により再度意見を聞くことで改善、質の向上を図っている。	毎日の申し送り・引き継ぎの際に、引き継ぎ事項に加えて担当職員が気づいた意見や提案を出す機会を設けています。また、施設長が直接職員から意見などを随時受け付けるほか、業務目標などの自己申告提出時に定期面談を行っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフトは書くスタッフの希望休に考慮し休暇が取りやすくバランスよく残業や資格の取得ができるよう努力している。	職員が月9日の公休に加えて付加休日を設け、年次有給休暇も取得しやすいようシフトを調整しています。「職員がライフとワークのバランスを保てるよう」配慮しています。法人として福利厚生制度の充実に努め、家賃補助、資格取得応援、懇親会補助なども行っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修への参加や特定技能実習生の受け入れなど一人一人のスキルを上げ、職員のスキルの差をなくせるように配慮している。	新入職員の福祉業務経験に応じて先輩職員がOJTで指導するとともに、法人が入職時研修のほか各種研修を体系的に実施しています。またキャリアパス制度を設け、研修を重ねながら上位職を目指す仕組みを整備しています。75歳定年制により、長期的に働き続けられる環境を整えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同建物内に他施設があるのでイベントなどを通しての交流やご利用者様の移動などでの交流や意見交換などを行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人様からの聞き取り、ご家族の要望を踏まえ現状でのADL、趣味/嗜好/既往歴等を考慮し初期サービスに反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人様からの聞き取り、ご家族の要望を踏まえ現状でのADL、趣味/嗜好/既往歴等を考慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様からの聞き取り、ご家族の要望を踏まえ現状でのADL、趣味/嗜好/既往歴等を考慮し【今できること】→【出来るようになること】を支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事を把握し残存機能を活かし日々の手伝いやレクを通じ職員共々かわり合いをもって共同生活を過ごして頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人様の状態や健康管理、日々の様子をご家族へ伝えている。必要な物品等ある際は相談し、ご理解と関わりを継続している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日中の面会に制限はない。いつでも面会可。但し直接的なキーパーソン以外への情報提供、開示には制限がある。	入居後も馴染みの人とのつながりが途切れないよう、携帯電話を持つ利用者が家族と通話したり、面会時に外出して家族と食事をしたりする機会を大切にしています。家族以外の友人などから手紙や年賀状が届く利用者もおり、こうした外部との交流を事業所として積極的に応援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	会話によるコミュニケーション、体操やレク等を通じご利用者同士、職員が関わり合いを持ちながら孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用者様退去後もご家族との交流は施設のイベントへの参加の声掛けやその後のご相談などで交流しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントシートの活用。現状困難な場合は本人の希望に出来るだけ答えられるよう、今できる楽しさを本人の様子を確認しながら行っている。	傾聴を基本に積極的に会話を重ね、入浴時や居室訪問など個別対応の場を利用者の本音を引き出す機会として活用しています。利用者の自己決定を尊重するという理念のもと、利用者の気持ちを最優先に考え、利用者主体のケアを実践するよう職員に指導しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前のアセスメントシートの確認。本人様が安心/安全/安楽に過ごせるサービス内容を考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	時系列の個人記録や朝・夕のバイタル測定での健康状態を把握できるようになっている。特記事項は業務日報、申し送り等で共有される。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	施設介護計画書は目標中心となりますが、モニタリングを通して職員と話し合い反映させています。	本人、家族の意向を確認し、アセスメント、職員、医療関係者と情報を共有し、介護計画を作成しています。更新時にはモニタリングをおこない、解決すべき課題を明確にしています。短期を6ヶ月、長期を1年とし、状態に変化があった時はそのつど見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録に残すと共に申し送り時やフロアミーティング等で情報を共有し常に改善を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームの枠にとらわれず柔軟に対応したいと思っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域にあるスーパーへの買い物や散歩などや地域のお祭りなどへの参加をしています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診は月2回程度となっている。処置の内容や状況を把握して頂けるよう往診時に立ち合いをお願いする事もある。	利用者、家族の同意を得て利用者全員が、協力医療機関の医師をかかりつけ医として、月2回の訪問診療を受診しています。週1回訪問看護師が健康チェックをし、医師と情報を共有しています。緊急時に備えて24時間オンコール体制をとっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護用に連絡ノート設置。日々のアセスメントで気づいた点を口頭で伝え指示を仰いでいる。また、医事課と連携し臨時往診や相談が常時取れる状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の連絡や連携を取り入院時の状況の報告や退院後の生活への不安がないよう密に連絡を取り合っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ムンテラの実施。状態の変化に注意し、情報の共有を行い無理のない支援を心掛けている。	入居時に看取りに関する事業所の方針を説明しています。利用者の状況の変化に応じて家族の要望をふまえ、医師、看護師、管理者と話しあい、利用者、家族の望む終末期が迎えられよう取り組んでいます。職員は看取りの研修を受け医療関係者と連携して支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	オンコール（24時間対応）看護師/医師から指示を仰ぎ応急手当や初期対応が行えるようになっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施。非常時の物品の確保やカセットボンベによる炊飯も可能。緊急時は近隣の方との非難、協力体制が出来ている。	併設の小規模多機能事業所と合同で昼間想定避難訓練を年2回行っています。非常災害のBCP(事業継続計画)を作成し机上訓練と研修をしています。町内会の消防団と話し合い、お互いの備蓄品の活用など協力関係にあります。水害も想定し、備蓄品は3階に保管しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者本位【尊厳保持】は当ホームの理念となっているが感情的に声を荒げてしまう職員も居るため適宜指導し、研修等で理解を深めてもらっている。	接遇、プライバシーの保護、個人情報保護法などの研修を繰り返しおこない、職員の人格の尊重の意識を高めています。自己表現ができるよう利用者はその日その日の自己選択による食器洗い、お盆拭きなどの手伝いで残存能力を活かし、満足度の向上を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者による選択【自己決定】は当ホームの理念となっているが職員本位になりがち。声掛けにより本人様が決定し職員本位にならないよう指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レクや行事参加等、気分がのらない様子や発語がある際は無理強いせずにご本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容の活用。入浴時、ご自身で着替えを選んで頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	副食/副菜の盛り付け、お茶淹れに参加頂いている。毎食前に献立発表（内容を説明）し食事を楽しんでもらっている。	利用者はお茶入れ、盛りつけなどの手伝いをし、職員と同じテーブルで同じ会話などを交えて食事を楽しむ時間としています。行事食には、お正月のおせち料理やひな祭りにはちらし寿司、誕生会にはケーキなど利用者に喜んでもらえるように工夫をしています。夏には事業所の菜園で育てたスイカを堪能しました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養評価を行っている食材配達業者に頼んでいる。常食の他にペースト食にも対応。水分提供時必要に応じとろみ粉使用。安全面に留意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯ブラシ・歯磨き粉・スポンジブラシと個々に必要な物品を揃え見守り、介助を行っている。義歯使用の方は夕食後お預かりし洗浄剤使用している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時系列での排泄表の活用。ADLの変化に伴いポータブルトイレを設置し対応している。現在の職員の介護レベルではトイレでの立ちオムツや2人介助での排泄介助は難しいと考える。	排泄の自立を維持できるよう、日中は定時の声かけ誘導を行うとともに、個々の尿意のしぐさを見て随時声かけをしています。夜間も定時でトイレへの誘導を行うほか、安眠を優先して大きなパッドを使用するなど、個別対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操参加への声掛け。1日水分摂取量1000ml確保。ほうじ茶/緑茶/コーヒー/紅茶/スポーツドリンクを用意している。医師、看護師へ相談し適宜GEやラキソベロン使用。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の状態、往診や訪問マッサージ等を考慮し曜日を決めている。シャワーチェアの活用。入浴剤を使用し季節感や香りを楽しんで頂くことも。	週に2回以上の入浴を基本とし身体状況に応じて、シャワー浴や清拭をしています。入浴、シャワー浴、清拭の前には体温、血圧を測定し、皮膚の状態を観察しています。浴槽の湯は利用者ごとに入れ替えゆず湯などで、ゆったりとした時間を過ごしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室内適宜冷暖房の使用。自宅で使い慣れた布団類をお持ち頂き使用している。昼寝の時間を設けてはいるが傾眠や臥床希望聞かれた際は速やかに休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診時の準備・申し送り・往診記録を行っている。処方箋の内容確認/保管。薬の管理。次回往診時の為に副作用等の観察を行っている。状態の変化により錠剤⇄粉末に変更して頂くことも。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクは職員の個性を活かし実施。誕生会や季節ごとの各行事を行い楽しみや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。春先など花壇の鑑賞や近隣公園での花見にも参加して頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	公園への散歩や近隣での買い物に行っている。ご家族との外出も特別な制限はなく介護タクシーの照会もしている。	日常的な外出支援として、近くの公園への散歩や事業所の花壇での花摘みを取り入れ、近隣の人との交流につながっています。また、職員が同行してスーパーへの買い物に出かけるほか、家族と連携して墓参りや外食、馴染みの美容院への外出も支援しています。	個別に散歩や買い物に行っていますが、車いすの利用者も含め、お花見など行きたい場所へ全員で出かける機会を設けることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人で財布を持つことは可能。その際は金額や管理の方法を相談させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話の持ち込み可。管理は本人様に任せている。手紙や切手などの準備も必要に合わせて対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂（共用空間）には季節ごとの飾り付け【ご利用者、職員作成】を楽しんで頂いている。適宜冷暖房の使用。日差しが強く入る時間帯には遮光カーテンを引き不快な環境を作らないよう心掛けている。	清潔保持に努め、利用者と職員が季節の飾り付けを手作りするなど、居心地のよい空間づくりに取り組んでいます。春には庭で摘んだ花を飾り、童謡に合わせた体操を取り入れています。利用者が洗濯物たたみなど日常的な役割を担いながら、会話する時間を大切にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	会話好きな方、TV鑑賞が好きな方、アセスメントする事で特徴をつかみ食席を考慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用していた物や趣味の物、本人様が作成した物を持参して頂いている。必要に応じてコールボタンで職員を呼べるようになっていく。	クロゼット、ベッド、エアコン、カーテンが備え付けです。思い出のある使い慣れた家具などで家族と相談をしながら、配置を決めています。ぬいぐるみや家族の写真などを飾り自分の部屋と思えるようにしています。職員が衣替えや備品の不足など確認しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線の確保。廊下やトイレ、浴室には必要な手すりを設置している。筆記用具や雑誌、趣味の物は手の届く・認識できる所に。共用部、各居室共の整理整頓を心掛けている。		

事業所名	グループホーム東小田
ユニット名	3階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念の1つに【地域共生】を掲げている。近隣の入居者様が多く、地域の特性やニーズに合わせた支援を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内祭りの際、神輿渡御のルートになっていて休憩所としても開放している。イベント『芋煮会』の開催。地域交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設掲示板に介護相談の掲示をしている。家庭での介護の悩みについて話を聞き支援することが目的であり、また【近くに相談できる施設がある】と認知して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通して地域との繋がりを、地域の活動や行事へ参加施設の行事にも参加していただく関係性を築いています。地域の中にある施設作りをしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括には推進会議に参加していただき施設のイベントにも参加していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束及びスピーチロック、ドラッグロックとなる行為を正しく理解出来ていない職員が多いと感じる。引き続き研修等を通じて正しく理解してもらえるよう取り組んでいく。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴時等、全身確認の実施。外傷発見時には本人様に確認し関係職員に聞き取りを行い再発防止に努めている。施設長含め職員間で根本原因の話し合いを実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、ご利用者様が青年後見人を利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結には十分な時間をかけています。不安や疑問点があれば、その都度管理者が対応しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置。ご家族の希望など可能な限り随時対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なフロア会議や申し送り時など意見交換の場を設けている。場合により再度意見を聞くことで改善、質の向上を図っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフトは書くスタッフの希望休に考慮し休暇が取りやすくバランスよく残業や資格の取得ができるよう努力している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修への参加や特定技能実習生の受け入れなど一人一人のスキルを上げ、職員のスキルの差をなくせるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同建物内に他施設があるのでイベントなどを通しての交流やご利用者様の移動などでの交流や意見交換などを行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人様からの聞き取り、ご家族の要望を踏まえ現状でのADL、趣味/嗜好/既往歴等を考慮し初期サービスに反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人様からの聞き取り、ご家族の要望を踏まえ現状でのADL、趣味/嗜好/既往歴等を考慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様からの聞き取り、ご家族の要望を踏まえ現状でのADL、趣味/嗜好/既往歴等を考慮し【今できること】→【出来るようになること】を支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事を把握し残存機能を活かし日々の手伝いやレクを通じ職員共々かわり合いをもって共同生活を過ごして頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人様の状態や健康管理、日々の様子をご家族へ伝えている。必要な物品等ある際は相談し、ご理解と関わりを継続している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	日中の面会に制限はない。いつでも面会可。但し直接的なキーパーソン以外への情報提供、開示には制限がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	会話によるコミュニケーション、体操やレク等を通じご利用者同士、職員が関わり合いを持ちながら孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用者様退去後もご家族との交流は施設のイベントへの参加の声掛けやその後のご相談などで交流しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントシートの活用。現状困難な場合は本人の希望に出来るだけ答えられるよう、今できる楽しさを本人の様子を確認しながら行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前のアセスメントシートの確認。本人様が安心/安全/安楽に過ごせるサービス内容を考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	時系列の個人記録や朝・夕のバイタル測定での健康状態を把握できるようになっている。特記事項は業務日報、申し送りで共有される。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	施設介護計画書は目標中心となりますが、モニタリングを通して職員と話し合い反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録に残すと共に申し送り時やフロアミーティング等で情報を共有し常に改善を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームの枠にとらわれず柔軟に対応したいと思っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域にあるスーパーへの買い物や散歩などや地域のお祭りなどへの参加をしています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診は月2回程度となっている。処置の内容や状況を把握して頂けるよう往診時に立ち合いをお願いする事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護用に連絡ノート設置。日々のアセスメントで気づいた点を口頭で伝え指示を仰いでいる。また、医事課と連携し臨時往診や相談が常時取れる状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の連絡や連携を取り入院時の状況の報告や退院後の生活への不安がないよう密に連絡を取り合っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ムンテラの実施。状態の変化に注意し、情報の共有を行い無理のない支援を心掛けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	オンコール（24時間対応）看護師/医師から指示を仰ぎ応急手当や初期対応が行えるようになっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施。非常時の物品の確保やカセットボンベによる炊飯も可能。緊急時は近隣の方との非難、協力体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者本位【尊厳保持】は当ホームの理念となっているが感情的に声を荒げてしまう職員も居るため適宜指導し、研修等で理解を深めてもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者による選択【自己決定】は当ホームの理念となっているが職員本位になりがち。声掛けにより本人様が決定し職員本位にならないよう指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レクや行事参加等、気分がのらない様子や発語がある際は無理強いせずにご本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容の活用。入浴時、ご自身で着替えを選んで頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	副食/副菜の盛り付け、お茶淹れに参加頂いている。毎食前に献立発表（内容を説明）し食事を楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養評価を行っている食材配達業者に頼んでいる。常食の他にペースト食にも対応。水分提供時必要に応じとろみ粉使用。安全面に留意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯ブラシ・歯磨き粉・スポンジブラシと個々に必要な物品を揃え見守り、介助を行っている。義歯使用の方は夕食後お預かりし洗浄剤使用している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時系列での排泄表の活用。ADLの変化に伴いポータブルトイレを設置し対応している。現在の職員の介護レベルではトイレでの立ちオムツや2人介助での排泄介助は難しいと考える。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操参加への声掛け。1日水分摂取量1000ml確保。ほうじ茶/緑茶/コーヒー/紅茶/スポーツドリンクを用意している。医師、看護師へ相談し適宜GEやラキソベロン使用。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の状態、往診や訪問マッサージ等を考慮し曜日を決めている。シャワーチェアの活用。入浴剤を使用し季節感や香りを楽しんで頂くことも。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室内適宜冷暖房の使用。自宅で使い慣れた布団類をお持ち頂き使用している。昼寝の時間を設けてはいるが傾眠や臥床希望聞かれた際は速やかに休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診時の準備・申し送り・往診記録を行っている。処方箋の内容確認/保管。薬の管理。次回往診時の為に副作用等の観察を行っている。状態の変化により錠剤⇄粉末に変更して頂くことも。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクは職員の個性を活かし実施。誕生会や季節ごとの各行事を行い楽しみや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。春先など花壇の鑑賞や近隣公園での花見にも参加して頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	公園への散歩や近隣での買い物に行っている。ご家族との外出も特別な制限はなく介護タクシーの照会もしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人で財布を持つことは可能。その際は金額や管理の方法を相談させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話の持ち込み可。管理は本人様に任せている。手紙や切手などの準備も必要に合わせて対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂（共用空間）には季節ごとの飾り付け【ご利用者、職員作成】を楽しんで頂いている。適宜冷暖房の使用。日差しが強く入る時間帯には遮光カーテンを引き不快な環境を作らないよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	会話好きな方、TV鑑賞が好きな方、アセスメントする事で特徴をつかみ食席を考慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用していた物や趣味の物、本人様が作成した物を持参して頂いている。必要に応じてコールボタンで職員を呼べるようになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線の確保。廊下やトイレ、浴室には必要な手すりを設置している。筆記用具や雑誌、趣味の物は手の届く・認識できる所に。共用部、各居室共の整理整頓を心掛けている。		

2025年度

事業所名 医療法人啓和会 グループホーム東小田  
作成日：2026 年 5 月 17 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	家族参加できるような仕組みが期待されます。	運営推進会議にご利用様のご家族に参加していただき施設の状況や運営の内容をより理解していただく。	運営推進会議の開催の手紙だけでなく電話や面会時に開催日時や場所を伝え参加してもらえよう声掛けを行う	12ヶ月